

令和 8 年度病虫害発生予報第 2 号（6 月予報）概要表

令和 8 年 5 月 2 8 日
埼玉県病虫害防除所

作物名・病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 水稲（5月中旬までの移植）</u>		
（1）いもち病（葉いもち）		並
（2）縞葉枯病		並
（3）ヒメトビウンカ		やや多
（4）イネミズゾウムシ		並
<u>2 水稲（5月下旬以降の移植）の育苗期～移植期防除対策</u>		
（1）いもち病（育苗期）		
（2）もみ枯細菌病（育苗期）		
（3）縞葉枯病		
（4）スクミリンゴガイ		
<u>3 なし</u>		
（1）黒星病		並
（2）ハダニ類		並
（3）果樹カメムシ類		やや多
（4）シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）		やや多
<u>4 なす（夏秋栽培）</u>		
（1）オオタバコガ		多
（2）ハダニ類		並
（3）アザミウマ類		並
<u>5 きゅうり（冬春栽培）</u>		
（1）アザミウマ類		やや多
（2）コナジラミ類		多
<u>6 ねぎ（秋冬栽培）</u>		
（1）さび病		並
（2）ネギアザミウマ		やや多

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ※ 過去 10 年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。

作物名・病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
7 茶		
(1) 炭疽病		並
(2) チャハマキ (第 1 世代幼虫)		並
(3) チャノコカクモンハマキ (第 1 世代幼虫)		並
(4) チャノホソガ (第 2 世代幼虫)		やや少
(5) チャノミドリヒメヨコバイ		並
(6) カンザワハダニ		並
(7) チャノキイロアザミウマ		並

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ 並※： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。

令和8年度病虫害発生予報第2号（6月予報）

令和8年5月28日
埼玉県病虫害防除所

1 水稻（5月中旬までの移植）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (葉いもち)	並	○5月中旬の発生量：無 □5月1日～27日までの感染 好適日出現日数1日(平成2.4 日)：並(±) □気象予報：気温は高い、降水 量は平成並が多い、日照時間 はほぼ平成並(±)	・本田での発生を認めたら、「病虫害診断のポ イントと防除対策」(参照1)を参考に、防 除対策を実施する。 ・本田内の置き苗は感染源となるため、早め に撤去する。
縞葉枯病	並	○5月中旬の発生量：無 □ヒメトビウンカ越冬世代幼 虫のイネ縞葉枯ウイルス保 毒虫率(参照3)：やや少(－) □6月のヒメトビウンカの予想 発生量：やや多(+)	・本田での発生を認めたら、「病虫害診断のポ イントと防除対策」(参照1)を参考に、ヒ メトビウンカの防除対策を実施する。 ・被害株は保毒虫増加の原因となるため、早 めに抜き取り処分する。
ヒメトビ ウンカ	やや多	○5月中旬の発生量：－ □5月の県予察ほ場における麦 ほ場でのヒメトビウンカの 生息密度：やや多(+) □5月の麦ほ場でのヒメトビウ ンカの生息密度(参照4)：や や多(+) □気象予報：気温は高い、降水 量は平成並が多い(±)	・本虫は縞葉枯病以外に黒すじ萎縮病も伝搬 するため、縞葉枯病抵抗性品種であっても、 箱施薬しなかったほ場では本田防除を実施 する。
イネミズ ゾウムシ	並	○5月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い(+)	・本田での発生を認めたら、速やかに本田防 除を実施する。

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照3：ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率調査結果（令和8年1月16日）

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_himehodoku20260116.html

参照4：麦類ほ場内のヒメトビウンカの生息密度調査結果（令和8年5月28日）

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_himetobimitsudo20260528.html

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多**：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(－)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

2 水稲（5 月下旬以降の移植）の育苗期～移植期防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
いもち病 （育苗期）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に、種子予措を実施する。 ・育苗箱に発生した場合、ただちに薬剤による防除を実施する。 ・本田の置き苗は感染源となるため、早めに撤去する。 ・移植後に発生が見られた場合は、「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に、本田防除を実施する。
もみ枯細菌病 （育苗期）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に、育苗管理を実施する。 ・温湯消毒を行う場合、60℃10 分間処理では本病に対する効果が不十分なことがある。そのため、薬剤による消毒を行うか、事前に十分な発芽率を確認した上で、60℃15 分間処理を行う。 ・病原細菌は高温で増殖するため、催芽時及び播種後の温度が 28℃以上にならないよう管理する。
縞葉枯病	・コシヒカリ、キヌヒカリ等の本病感受性品種で箱施薬を実施しなかった場合は、「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に、本病ウイルス媒介虫であるヒメトビウンカの本田防除を実施する。 ・直播栽培では、種子塗抹剤により本病ウイルス媒介虫であるヒメトビウンカの防除を実施する。
スクミリンゴガイ （ジャンボタニシ）	・移植前の入水時から移植後 3 週間まで、取水口・排水口に 9 mm 目合のネットや金網を設置する。 ・常発地域では、移植時に薬剤の全面散布を行う。特に貝が集まりやすい深水部には重点的に散布する。 ・常発地域では、移植後 3 週間を目安として浅水管理(水深 4cm 以下)を行う。
【共通注意事項】 （スクミリンゴガイを除く） ・常発地や昨年多発した地域では、播種期～育苗期に箱施薬剤で防除を徹底し、播種時箱施薬を実施していない場合は、移植前の箱施薬剤で防除する（縞葉枯病はヒメトビウンカ対象）。	

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+) は助長または促進、(-) は抑制、(±) は傾向維持を意味します。

3 なし

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒星病	並	○5月中旬の発生量：無 □開花期から幼果期の降水量： 平年並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並が多い（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌の発現を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。
ハダニ類	並	○5月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並が多い（±）	・ナミハダニ及びカンザワハダニは、5月以降に施設イチゴ、ナスなどから移動して発生が増加することがあるため、注意する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。
果樹 カメムシ類	やや多	○5月中旬の発生量：無 □予察灯等による誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並が多い（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・雑草及び防風垣の着果性樹木（イヌツゲ、ヒバ類など）、モモの果実及び開花時のカンキツ類などにも飛来し寄生するため、同時期に防除を行う。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、発生動向に注意して防除を実施する。
シンクイ ムシ類 (ナシヒメ シンクイ) (第2世代幼虫)	やや多	○5月中旬の発生量：散見 □フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並が多い（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・交信攪乱剤（コンフューザーN等）を第1世代成虫の発生期（5月下旬～6月上旬）から使用する。ナシ園の周囲を含め広範囲で使用することが効果的である。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、第1世代成虫の発生期に注意し、第2世代幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多**：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

4 なす（夏秋栽培）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
オオタバコガ	多	○5月中旬の発生量：多 □フェロモントラップによる誘殺数：やや多（＋） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（＋）	・5月26日に発表した防除情報（ 参照 5 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照 2 ）を参考に第1世代成虫の発生期に注意し、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。 ・地域によっては多発生となっているため十分に注意する。
ハダニ類	並	○5月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	
アザミウマ類	並	○5月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照 5：令和 8 年度病虫害防除情報「ナスのオオタバコガについて」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/info20260526en.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

5 きゅうり（冬春栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
アザミウマ類	やや多	○5月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（＋）	・本虫は黄化えそ病を伝搬するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
コナジラミ類	多	○5月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い（＋）	・本虫は退緑黄化病を伝搬するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。 ・栽培終了後は、施設を密閉して蒸し込みを行い、施設外への飛び出しを防止する。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並※：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・多※※：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

6 ねぎ（秋冬栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
さび病	並	○5 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	
ネギ アザミウマ	やや多	○5 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。 ・育苗期間中から防除を徹底する。 ・定植時の防除を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+) は助長または促進、(-) は抑制、(±) は傾向維持を意味します。

7 茶 (1/2)

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	並	○5月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の越冬病葉数：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・「さやまかおり」「やぶきた」「こまかげ」「ふくみどり」は発生しやすいため、一番茶残葉の発病に特に注意する。
チャハマキ (第1世代幼虫)	並	○5月中旬の発生量：並 □県予察灯の越冬世代成虫の誘殺数：少（－） □フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。
チャノ コカクモンハマキ (第1世代幼虫)	並	○5月中旬の発生量：多 □県予察灯での越冬世代成虫の誘殺数：少（－） □フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺数：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。
チャノホソガ (第2世代幼虫)	やや少	○5月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の第1世代幼虫による被害芽率：やや少（－） □フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺数：少（－） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並※：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・多※※：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

7 茶 (2/2)

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
チャノミドリ ヒメヨコバイ	並	○5 月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の被害芽率：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。 ・周辺雑草で繁殖するため除草を励行する。
カンザワ ハダニ	並	○5 月中旬の発生：並 □県予察ほ場の寄生葉率：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。
チャノキイロ アザミウマ	並	○5 月中旬の発生量：やや多 □県予察ほ場の被害芽率：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	

参照 1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、[農薬登録情報提供システム（農林水産省）](#) から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

— 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ —

（令和 8 年 5 月 1 日～8 月 3 1 日）

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和8年5月28日発表)

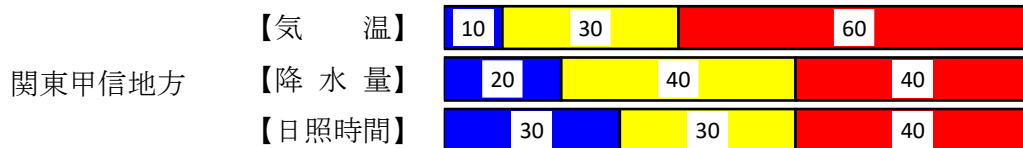
出典: 気象庁ホームページ

(https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=110000.html)

<予報のポイント>

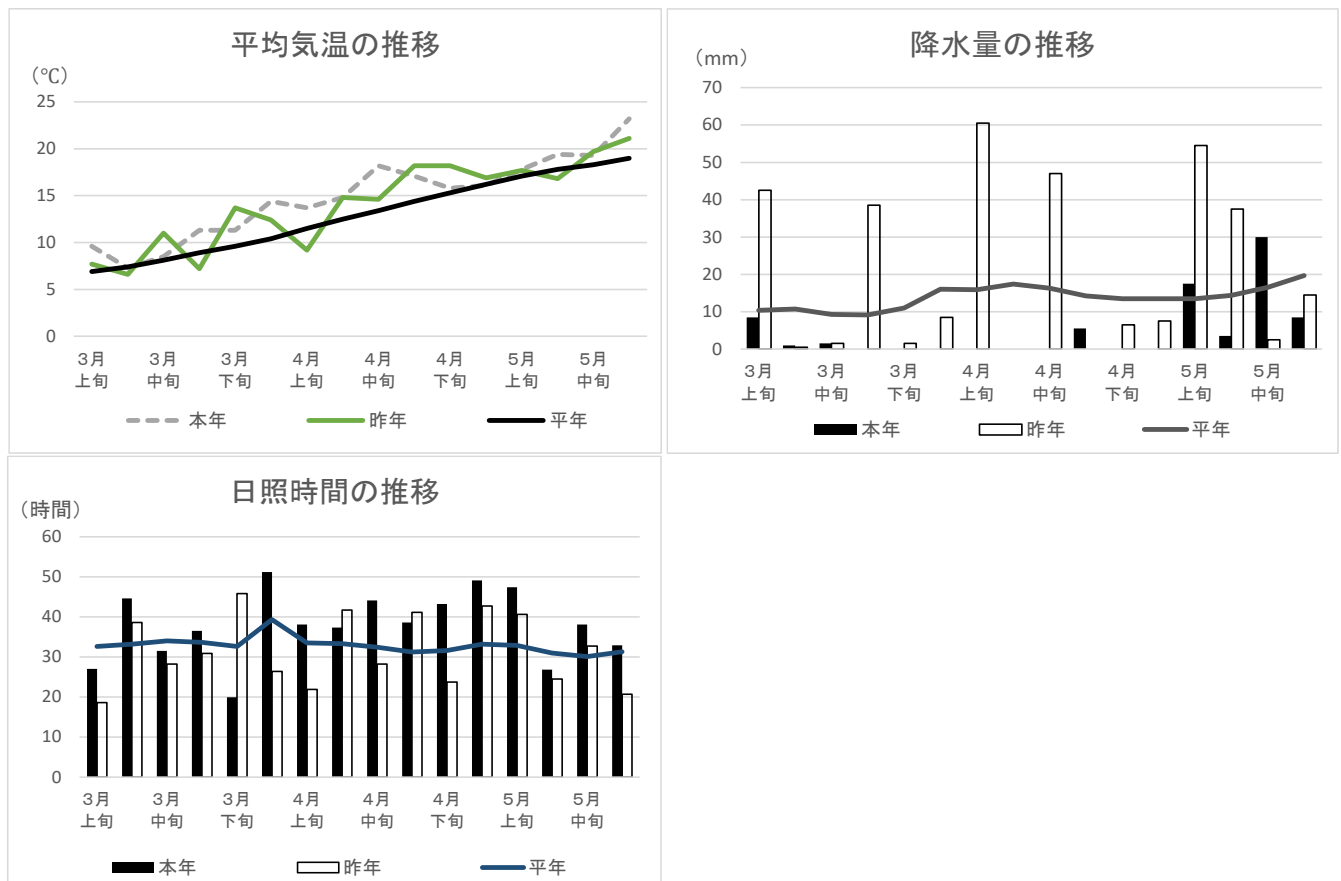
- ・暖かい空気に覆われやすいため向こう1か月の気温は高く、期間のはじめはかなり高くなる見込みです。
- ・期間のはじめに台風第6号や湿った空気の影響を受けるため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先

埼玉県病虫害防除所

〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784

電話: 048-539-0661 FAX: 048-539-0663

E-mail: k3603114@pref.saitama.lg.jp

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>